

俗耳談

市川寬齋口談
井田贊昌筆

三篇卷五

特別
15
1420
10



其のひきくき地をわの依る所は正統申れしと祝々
即此より工商ありてその工商知し士やうりて乃とま
凡後より於る多きなりしころより一んゆりとのありぬれし
古より傳つてはききぬれしやうて廢るる武中とある可
きりゆりし由りより神とみするも亦廣申ゆぬり只世の徒
多し信ありていりしころより亦信ありぬりしころより
刑に甲申と製するの時至信より幼信をいし古に信ありぬ
しゆりありて致ゆのち後と稱するのみ、此甲申ありぬり
善報するものも某人のありてこれ亦祝とあるゆの一申し

是れを幼信とす唯も信ありぬりしころより
折るる人ぬりしころより

一 同男子七名ありて武功ありてその上功の字を冠ししと
實ゆりて同某未とあるありて思ふにゆりしゆりし字
と世に記ししとく及てあるも自稱するも人より目しとゆり
ありてゆりしゆりしゆりしゆりしゆりしゆりしゆりしゆり
て武名名ぬりしゆりしゆりしゆりしゆりしゆりしゆりしゆり

徳右衛門督藤原忠入 見正 武田悪三郎 五郎信 悪八郎 先次子
為頼 比亦武田族正應三年入禁中自善 玉宇悪八郎 信城氏 小山悪四郎 朝庵下

見備太 芥田悪六兵衛 秋月種長臣 武家名也

平記 見九州記 十人より皆未七歳中ありしものとす

且幼児の武功何と稱すし又鬼字と名を冠すありしは皆之を

才とてく人の目すにれぬ名も少紙す九六人あり其

鬼平賀隆宗と云ふ名ありし 名一存三 鬼加賀氏 本

下瀬石州吉見三河守正 好長慶弟 鬼九郎左衛門 本氏世良大

頼臣見武家高名記下司 内美隆臣 一書と云ふしと云ふと欲ん非なる事と云ふしと悔ぞ

うとありしれりしもの口を流くともい十分の

ゆいぬきす(る)書と云ふやわらうの致す事向乃

限りいふ人もせらふもさうざらふやあはれん胡あま

大に知るとも合ふるは批す知る人の批言と云ふ人

此れもさう知るるの牛あひの身うらひの一生は流れぬ

少くはれん亦是生あれ名とかりあり古人の事なと云

世の事や何と悟るまも批評點笑と云ふも亦是後生

此道とて陸賈新語曰懐道者需世抱璞者待工

又曰書為曉者傳事為見者明これ世の事なと云ふ

まゝの事判行す世の眼と骨やしは群書と云ふ様

能辨く辨るん事なりし事人の説きし事及る

人神と云くくしと教つるを神と判する内あり者
そのついで申すも亦也且其術と云く又其業と云
あり其術と云く又其業と云

一 徳と云く其世徳と云く其徳と云く其徳と云く
つけり也ニ其徳と云く其徳と云く其徳と云く
かゝりし也

一 禽獸此死と哀じといふ其徳と云く其徳と云く
徳と云く其徳と云く其徳と云く其徳と云く
ハ其徳と云く其徳と云く其徳と云く其徳と云く

死と哀と云く凡五の事也死哀も凡五也其徳と云く
悲小知又少く其徳と云く其徳と云く其徳と云く
と云く其徳と云く其徳と云く其徳と云く其徳と云く
念ありし事と云く其徳と云く其徳と云く其徳と云く
信ありし事と云く其徳と云く其徳と云く其徳と云く
と云く其徳と云く其徳と云く其徳と云く其徳と云く
ヤ其徳と云く其徳と云く其徳と云く其徳と云く

一 姓氏人々も祖先と云く其徳と云く其徳と云く
其徳と云く其徳と云く其徳と云く其徳と云く
射多し其徳と云く其徳と云く其徳と云く其徳と云く

